

<b>発表タイトル</b>	ペルー北海岸における考古遺産の研究
<b>発表者所属名</b>	国立民族学博物館 外来研究員
<b>発表者氏名</b>	サウセド・セガミ・ダニエル・ダンテ

近年、ペルーにおける考古学者は考古遺産の保護運動を促進するために博物館を使用している。考古学者は、博物館で遺物を展示するだけでなく、科学的な研究の方法や過程の説明にも力を入れている。具体的には、長年の研究で得られた成果を説明するために、考古学者は画像、モデル、ビデオなどを多用している。こうした活動を通じて、観光業や一般市民の教育を促進することにより、遺産の保護を達成することができると考古学者らは考えている。ペルー政府は、この新しい傾向に同調しており、観光客獲得のために、いくつもの博物館建設の支援をおこなっている。その結果、考古学的な観光事業が増加し、遺跡や博物館を見に行く国内外の観光客の増加を生み出した。

しかし、それでも考古遺産が危険にまだあり、近年いくつかの遺跡が破壊されている。なぜ遺跡の考古学的価値について詳細な情報があるにもかかわらず、遺跡の破壊を停止できないのか。本発表では、ペルー北海岸における国立シカン博物館のフィールド・ワークで収集されたデータに基づいて、この問題の理由を議論したい。この地域では、ペルー政府が、考古遺跡や自然資源を保護するために多額の投資をおこなっているが、一般市民は遺跡を破壊している。これらの考古遺産をめぐるコンフリクトの主な原因は一般市民と考古学者の間に存在する異なる視点に由来することを本発表では指摘する。